

2021年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年5月14日

上場会社名 株式会社ツナググループ・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6551 URL https://tghd.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)米田 光宏
 問合せ先責任者 (役職名)経営統括室室長 (氏名)小林 美重子 (TEL)03-3569-2790
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第2四半期の連結業績(2020年10月1日～2021年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		調整後EBITDA※		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第2四半期	5,885	△15.5	△195	—	20	△64.9	△187	—	△156	—
2020年9月期第2四半期	6,966	52.6	△170	—	59	△71.4	△174	—	△195	—

(注) 包括利益 2021年9月期第2四半期 △158百万円 (—%) 2020年9月期第2四半期 △200百万円 (—%)

※調整後EBITDA(営業利益+減価償却費及びのれん償却費)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第2四半期	△20.62	—
2020年9月期第2四半期	△26.85	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第2四半期	5,661	825	14.5
2020年9月期	5,302	721	13.5

(参考) 自己資本 2021年9月期第2四半期 817百万円 2020年9月期 713百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日～2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後EBITDA	
	百万円	%	百万円	%
2021年9月期	12,500	3.3	440	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 一、除外 3社(社名) 株式会社スタッフサポーター
株式会社ツナググループ・マーケティング
Regulus Technologies株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年9月期2Q	8,290,584株	2020年9月期	7,391,520株
2021年9月期2Q	83,643株	2020年9月期	83,643株
2021年9月期2Q	7,587,512株	2020年9月期2Q	7,270,895株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大により発出された2021年1月の緊急事態宣言の影響もあり、宿泊・飲食サービス業や製造業・小売業を中心に長期間の低迷が続いています。教育・学習支援業、医療・福祉業、情報通信業など一部の業界では就業者数の増加も見られますが、新型コロナウイルス感染症による後遺症が長引く恐れもあり、日本経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

国内の雇用情勢につきましても、非常に厳しい状況が続いており、2021年3月の有効求人倍率は1.10倍と前年同時期から0.31ポイント悪化し、また、完全失業率は2.6%（季節調整値）、完全失業者数は188万人と前年同月に比べて12万人の増加となっています。

このような環境の中、当社グループの第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比では減収となったものの、四半期推移においては、第2四半期連結会計期間の売上高が前第1四半期連結会計期間との比較で423百万円の増収となりました。

また、スタッフィング事業においては、短期派遣の需要増加やコンビニエンスストアの販売収入の増加により前年売上高を上回ることができました。

費用面においては、事業会社の再編や大幅なオフィス縮小統合などの構造改革を推し進めたことにより、前年同期比では販売費及び一般管理費を637百万円削減いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高5,885百万円（前期比15.5%減）、営業損失195百万円（前年同期は170百万円の損失）、経常損失187百万円（前年同期は174百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失156百万円（前年同期は195百万円の損失）、営業利益よりのれん及び減価償却費影響を除いた調整後EBITDAでは、20百万円（前年同期は59百万円）となりました。

また、当第2四半期連結会計期間においては、売上高3,154百万円（前期比11.5%減）、営業利益69百万円（前年同期は53百万円の損失）、経常利益78百万円（前年同期は55百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益77百万円（前年同期は76百万円の損失）となりました。

当社グループにおける各セグメント別の業績は以下のとおりです。

(HRマネジメント事業)

HRマネジメント事業におきましては、主力のRPOサービス領域に加え、外国人雇用のコンサルティングやマッチングサービスを提供する外国人採用領域、スタッフの離職防止サービスを提供する定着化支援領域、原稿制作や新卒採用支援、営業代行等を受託する業務代行領域などがあります。

RPOサービス領域では、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により深刻な影響を受けた飲食・小売り・サービス業の採用抑制に加え、自動車関連などの顧客の採用抑制に伴う取引減少もあり、売上高が前年同期比でおよそ4割減少いたしました。ただし、中でも新卒採用代行は堅調であり、前年同期比で微増となっております。

外国人採用領域では、外国人の渡航制限の影響を受け、売上高が前年同期比でおよそ4割減少いたしました。

業務代行領域では、営業代行での大型受注もあり、売上高が前年同期比でおよそ4.5倍となりました。

これらの結果、HRマネジメント事業における売上高は1,647百万円（前期比14.4%減）、営業利益は1百万円（前期比94.2%減）となりました。

(メディア&テクノロジー事業)

メディア&テクノロジー事業におきましては、「シニア・主婦」「短期単発、近隣地域希望」といった求職者のニーズに対してWeb・ペーパーメディア・リアルイベントなど様々な求人メディアサービスを提供するセグメントメディア領域と、ITテクノロジーを駆使した人材マッチングサービスを提供するHRテクノロジー領域、当社グループ各社のあらゆるサービスを最大限に活用し、総合的に提案するトータルソリューション領域があります。

セグメントメディア領域では、シニア・主婦への求人情報サービス『ユメックス』、及び、短期単発バイト専門サービス『ショットワークス』において、都心部中心に求人案件数や応募数の減少により、売上高が前年同期比でおよそ4割減少いたしました。一方で、ショットワークスの派生サービスである『ショットワークス デリバリー』『ショットワークス ダイレクト（倉庫・物流業界向け）』といった専門領域に特化したサービスについては、新型

コロナウイルス感染症拡大の影響が限定的で堅調なニーズがあり、売上高は前年同期比で3割増加しております。

HRテクノロジー領域では、ビッグデータとアドテクノロジー（広告配信技術）を駆使したダイレクトリクルーティングサービス『Findin(ファインドイン)』は比較的堅調であり、売上高は横ばいで推移しました。

また、トータルソリューション領域では、大手小売顧客の採用抑制の影響を大きく受け、売上高はおよそ3割減少いたしました。

これらの結果、メディア&テクノロジー事業における売上高は2,932百万円（前期比21.0%減）、営業損失は107百万円（前年同期は91百万円の損失）となりました。

（スタッフィング事業）

スタッフィング事業におきましては、東北エリア・関東エリアを中心とした人材派遣及び日々紹介をおこなう派遣・紹介領域、派遣スタッフの研修店舗を兼ねたコンビニ店舗を運営するコンビニ領域があります。

派遣・紹介領域においては、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、特に販売・サービス業のマイナス影響が大きいことから、売上高は前年同期比でおよそ1割減少いたしました。

コンビニ領域は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、マイナス影響を受けつつも、ニューノーマル下での中食需要に対応した売場展開による日販の回復により、売上高が前年同期比でおよそ1割増加いたしました。

これらの結果、スタッフィング事業における売上高は1,712百万円（前期比1.7%増）、営業損失は48百万円（前年同期は75百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ358百万円増加し、5,661百万円となりました。これは主に売掛金が484百万円増加したことによるものです。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ255百万円増加し、4,835百万円となりました。これは主に買掛金が227百万円増加したことや未払法人税等が35百万円増加したことによるものです。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ103百万円増加し、825百万円となりました。これは主に資本金及びその他資本剰余金がそれぞれ130百万円増加したことや、その他利益剰余金が156百万円減少したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ6百万円減少し、799百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、減少した資金は338百万円（前年同四半期は90百万円の減少）となりました。これは、主として税金等調整前四半期純損失192百万円、売上債権の増加額484百万円及び仕入債務の増加額227百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、減少した資金は36百万円（前年同四半期は278百万円の減少）となりました。これは、主として有形固定資産の取得による支出31百万円、無形固定資産の取得による支出49百万円及び敷金の回収による収入42百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、増加した資金は369百万円（前年同四半期は146百万円の増加）となりました。これは、主として短期借入金の純増額319百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、2020年11月13日に公表いたしました通期の業績見直しに変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	805,534	799,369
売掛金	974,258	1,458,651
商品	52,090	54,727
仕掛品	8,440	828
その他	499,438	486,802
貸倒引当金	△3,111	△3,819
流動資産合計	2,336,652	2,796,558
固定資産		
有形固定資産	248,235	230,100
無形固定資産		
のれん	817,314	749,883
顧客関連資産	1,031,158	978,278
その他	398,549	402,397
無形固定資産合計	2,247,021	2,130,559
投資その他の資産		
その他	471,421	504,850
貸倒引当金	△1,032	△1,000
投資その他の資産合計	470,388	503,850
固定資産合計	2,965,645	2,864,510
資産合計	5,302,297	5,661,069

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	312,268	539,545
短期借入金	668,158	987,545
未払法人税等	12,614	48,537
賞与引当金	66,657	51,692
その他	1,429,363	1,294,682
流動負債合計	2,489,062	2,922,002
固定負債		
長期借入金	1,627,512	1,457,085
役員退職慰労引当金	3,820	—
その他	459,953	456,781
固定負債合計	2,091,286	1,913,866
負債合計	4,580,348	4,835,869
純資産の部		
株主資本		
資本金	520,120	650,712
資本剰余金	340,120	470,712
利益剰余金	△96,785	△253,254
自己株式	△50,002	△50,002
株主資本合計	713,452	818,167
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△197	△240
その他の包括利益累計額合計	△197	△240
新株予約権	—	452
非支配株主持分	8,693	6,819
純資産合計	721,948	825,199
負債純資産合計	5,302,297	5,661,069

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
売上高	6,966,759	5,885,951
売上原価	3,585,399	3,167,542
売上総利益	3,381,360	2,718,409
販売費及び一般管理費	3,551,655	2,913,721
営業損失(△)	△170,295	△195,311
営業外収益		
受取利息	42	732
助成金収入	1,949	18,433
受取手数料	1,706	3,294
その他	2,095	3,926
営業外収益合計	5,793	26,387
営業外費用		
支払利息	6,812	7,307
支払手数料	2,853	6,205
その他	396	5,260
営業外費用合計	10,062	18,773
経常損失(△)	△174,564	△187,698
特別利益		
リース債務解約益	—	4,950
特別利益合計	—	4,950
特別損失		
固定資産売却損	—	1,833
固定資産除却損	5,622	2,780
事務所移転費用	5,405	4,927
その他	—	0
特別損失合計	11,028	9,541
税金等調整前四半期純損失(△)	△185,592	△192,288
法人税、住民税及び事業税	33,322	42,444
法人税等調整額	△18,971	△76,389
法人税等合計	14,351	△33,944
四半期純損失(△)	△199,943	△158,343
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,735	△1,874
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△195,207	△156,469

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
四半期純損失(△)	△199,943	△158,343
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71	△42
その他の包括利益合計	△71	△42
四半期包括利益	△200,015	△158,386
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△195,279	△156,511
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,735	△1,874

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△185,592	△192,288
減価償却費	143,168	148,636
のれん償却額	86,315	67,430
賞与引当金の増減額(△は減少)	△41,319	△14,965
受取利息	△42	△732
支払利息	6,812	7,307
固定資産売却損	—	1,833
固定資産除却損	5,622	2,780
売上債権の増減額(△は増加)	12,030	△484,392
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,735	6,170
仕入債務の増減額(△は減少)	△93,112	227,276
未払金の増減額(△は減少)	125,314	△72,885
その他	△35,251	△47,117
小計	20,210	△350,945
利息及び配当金の受取額	22	732
利息の支払額	△6,727	△7,342
法人税等の支払額	△103,854	△6,521
法人税等の還付額	—	25,160
営業活動によるキャッシュ・フロー	△90,349	△338,916
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△117,190	△31,794
無形固定資産の取得による支出	△97,765	△49,435
投資有価証券の取得による支出	△10,190	—
投資有価証券の売却による収入	—	10,190
敷金の差入による支出	△67,461	△4,005
敷金の回収による収入	—	42,546
その他	14,468	△4,104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△278,139	△36,603
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	194,181	319,386
長期借入れによる収入	200,000	80,000
長期借入金の返済による支出	△213,418	△249,398
リース債務の返済による支出	△5,488	△5,272
配当金の支払額	△14,851	—
株式の発行による収入	1,915	—
自己株式の取得による支出	△25,216	—
新株予約権の発行による収入	—	1,262
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	223,377
非支配株主からの払込みによる収入	9,800	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	146,922	369,354
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△221,566	△6,165
現金及び現金同等物の期首残高	1,169,579	805,534
現金及び現金同等物の四半期末残高	948,012	799,369

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金が130,592千円、資本剰余金が130,592千円増加しました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が650,712千円、資本剰余金が470,712千円となっております。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	HRマネジメン ト事業	メディア& テクノロジー 事業	スタッフィ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,752,262	3,565,742	1,645,447	6,963,452	3,307	6,966,759
セグメント間の内部 売上高又は振替高	171,716	146,234	38,896	356,846	△356,846	—
計	1,923,978	3,711,976	1,684,343	7,320,298	△353,539	6,966,759
セグメント利益又は損失(△)	24,134	△91,309	△75,149	△142,324	△27,971	△170,295

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△27,971千円は、セグメント間取引消去3,303千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の純額△31,274千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	HRマネジメン ト事業	メディア& テクノロジー 事業	スタッフィ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,434,734	2,758,759	1,685,246	5,878,740	7,211	5,885,951
セグメント間の内部 売上高又は振替高	212,522	174,190	26,911	413,625	△413,625	—
計	1,647,257	2,932,950	1,712,157	6,292,365	△406,413	5,885,951
セグメント利益又は損失(△)	1,400	△107,334	△48,481	△154,416	△40,895	△195,311

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△40,895千円は、セグメント間取引消去19,601千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の純額△60,496千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。